

第4学年道徳学習指導案

4年 19名

指導者 大久保 孝子

1 総合単元名 一生けん命生きる

2 総合単元設定の理由

近年、道徳教育の課題として、生命尊重の心が十分育っていないことや、自尊感情の乏しさが指摘されている。このことは、子どもを取り巻く環境の変化、家庭や地域社会の教育力の低下、体験の減少などが原因と考えられる。特に生命尊重については、核家族化や少子化で、人の死や誕生にかかわる経験が少なくなったり、ゲームの中では死んでもすぐやり直せるような、生命を軽視する価値観をもったりして、現実には生や死を意識することはあまりない。このようなことから、子どもたちの中で、生命の重さや尊さを感じることは難しい状況にあると思われる。

本学級の子どもたちは、元気で明るく穏やかな子が多い。善悪の判断をする力も高まり、自分の行動を反省できるようになってきている。しかし、遊びの中でよく考えず危険な行動を取ったり、不注意からけがをしたりする子もいる。また、気に入らないことがあると友達に心ない言葉を言い傷つけてしまうこともある。これは、自分や友達の存在を大切にしているという気持ち、つまり、生命尊重の心が十分育ってきていないからだと思われる。また、子どもたちの中には、自分たちの生命が家族や多くの人に守られ支えられていることに気がついていない者もいる。「生命は大切だ」「生命は一つしかない」ということは知っているが、十分に意識され、それが生活の中に生かされているとは言えない。このような子どもたちに、生命はたった一つしかない限られたもので、支えられ守られているかけがえのないものであることをわからせたい。そして、その生命を大切にするために前向きに一生懸命生きるということはどういうことか考えさせたいと思っている。

そこで、生命を多面的にとらえ考えることで、生命を意識し大切にしようとする心情をほぐくむことができると思い、本単元を設定した。

3 総合単元の目標

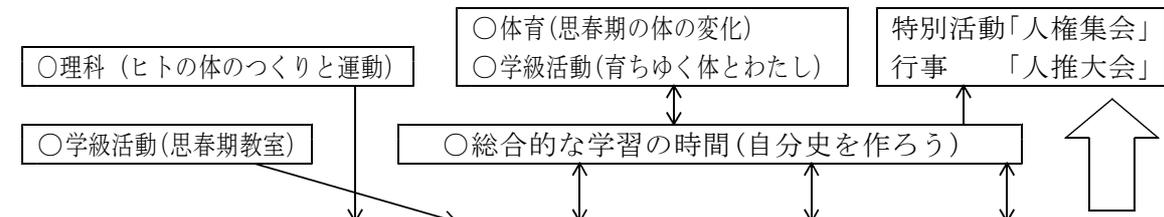
かけがえのない生命の尊さを感じ取り、生命を大切にしようとする心情を育てる。

4 単元構成について

本単元は、「感動する心・畏敬の念」（1時間）「生命尊重」（2時間）と「家族愛」（1時間）の4時間から構成される単元である。生命の不思議さやすばらしさ・誕生の喜びを感じ、たったひとつの生命は守られていることや限りがあることを知ることで、自分はどのように生きていけばよいのかを考えることができるようにしたいと思い単元を構成した。

第1時では日野原重明先生の授業を再現した資料「いのちのおはなし」から、「いのちは時間」ということの意味を考え、生命の不思議さや気高さを知ることで、生命について考えて生活していこうという意識を高めたい。第2時は資料「がんばれ！赤ちゃん」から、ひとつの生命が生まれることのすばらしさに気づき、自分の誕生の喜びを感じ取るようにしたい。第3時は、資料「お母さんの手紙」から母親の深い愛情を知り、自分が多くの人に支えられ生かされていることに気づき、感謝の気持ちをもつようにしたい。第4時(本時)では、資料「さいたよ、光祐くんのアサガオ」から、生命の大切さを訴えようとしているお母さんの思いに自分はどのように応えていけばよいのかを考えさせたい。なお、各教科等や常時活動は、本総合単元での気づきとなる学習の場、学んだことが生きる場として位置付けている。

総合単元 「一生けん命生きる」



	10月28日	11月4日	11月11日	11月18日
主 題	限りある命	命の誕生の喜び	支えられている命	一生けん命生きるとは
教材名	いのちのおはなし	がんばれ！ 赤ちゃん	お母さんの手紙	さいたよ， 光祐くんのアサガオ
出 典	学校図書 『かがやけみらい どうとく』 (4年)	小四教育技術 7月号増刊 2009	小四教育技術 7月号増刊 2009	学校図書 『かがやけみらい どうとく』 (3年)
内容 項目	3－(3) 感動する心・畏敬の念	3－(1) 生命尊重	4－(3) 家族愛	3－(1) 生命尊重
ねらい	「命は時間」ということを考えることを通して、自分のもつ限りある生命の大切さや気高さに感動する心を育てる。	生命の誕生の喜びに共感し、自分の生育を振り返り、生命あるものを大切にしようとする心情を育てる。	自分の生命が多くの人に支えられ守られていることに気づき、感謝する心を育てる。	生命がかけがえのないものであることを感じ取り、一生懸命生きていこうとする心情を育てる。

常時活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 分間スピーチ(朝の会) ・ 友達のいいところ・1日の振り返りカード(帰りの会) ・ 読書活動(朝の読書・読み聞かせ) ・ 日記 ・ 心のノート ・ 委員会・学級の係
------	---

5 評価

自分の生命が限られていることや、多くの人たちに守られ支えられていることに気づくことができたか、生命の尊さを感じ取り、生命を大切に一生懸命生きようとする気持ちがもてたか、道徳の時間や常時活動・関連する各教科等での活動や発言によって評価する。

6 本時の学習

① 主題名 一生けん命生きるとは

② 主題設定の理由

<ねらいとする価値について>

3 - (1)	生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする。
---------	--------------------------

すべての人間や生命あるものを尊重し、大切にしようとする心に根ざして、道徳的価値が形成されていく。生命の尊重の精神はすべての道徳性の根幹をなすものである。生命の大切さはどれだけ強調してもしすぎることはない。生命はたった一つであり、かけがえないものである。しかし、日常の生活の中で子どもたちがそれに気づいたり、考えたりする機会は少ない。そこで、現実性をもって死を理解できるといわれるこの時期に、生命の尊さについて深く考えさせたいと考える。生命の誕生を喜ぶ気持ちや失われた生命を悲しむ気持ち、多くの人に支えられて生かされている生命のありがたさに感謝する気持ち等を感じ取らせ、すべての生命を大切にしていこうとする心情を育てたい。また、限られた生命だからこそ一生懸命生きようとする意欲をもたせたい。

<子どもの実態について>

子どもたちは、これまでの学習で生命の不思議さやすばらしさに気づき、それぞれがかけがえない生命をもって生まれてきたことを確認できた。その時に保護者からよせられた手紙で誕生のエピソードなどを讀んだ子どもたちは、とてもうれしそうだった。その後の学習でわたしたちの生命が多くの人に支えられ、守られていることに気づき、感謝の気持ちをもつことができた。しかし、生命の大切さについて、理解を深めてきてはいるが、身近な人の死に接した経験が少ないためか、死については深く考えたことがない子がほとんどである。そこで本時においては、たった一つの生命が失われるということは言葉に言い尽くせない深い悲しみであることを知り、その生命を救うために、努力や協力をしている人の生き方を通して、生命の尊さを感じ取らせたい。また、自分はそういう人たちの思いにどのように応えたらよいのだろうかと考えることを通し、限りある命をつかって何事にも思い切り取り組んでいこうとする意欲を高めたい。

<教材について>

教材名：さいたよ、光祐くんのアサガオ（学校図書『かがやけみらい どうとく』3年）

本資料には、まみこさんが白血病の息子とともに病気と闘ったものの、その願いもむなしく光祐くんが亡くなってしまったこと、生きていたときに光祐くんが大切に育てていたアサガオに気づき、そのアサガオを骨髄バンクの大切さを呼びかけることに役立ててもらおうと活動していることが描かれている。このアサガオは、生前の光祐くんの思いが繋がったもので、まみこさんの心の中に生き続ける光祐くんそのものであり、全ての人に生命を大切にし、一生懸命生きてほしいという願いの象徴であると考えられる。

③ 道徳の時間の指導の工夫

本資料は、まみこさんの心情が中心に描かれている。（展開 A - アー (i)）まみこさんの思いに十分に共感するにはやや情報が不足しているが、短冊に願いごとを書く生前の光祐くんの気持ちを考えることで、息子を失おうとしているまみこさんの思いをとらえさせたい。さらに、補助資料を提示し、愛する光祐くんを失った悲しみに深く共感させたい。

また、全国に広がっていった命のアサガオの種を子どもたちに渡すことで、このアサガオは「光祐を生かし続けたい。そして、同じ悲しい思いをする人を少しでも減らしたい。」というまみこさんの思いの表れであることを理解し、一生懸命生きていこうとする意欲をもつことが、まみこさんの思いに応えることになるということに気づかせたい。

④ ねらい

生命がかけがえのないものであることを感じ取り、一生懸命生きていこうとする心情を育てる。

⑤ 展開

学習活動	主な発問と予想される子どもの意識	指導上の留意点
1 自分が病気になったときのことを発表する。	○病気になったとき、看病してくれた家族のことをどう思いましたか ・心配してくれてうれしかった。	○家族の思いや、生命の大切さを確認し、価値への導入をする。
2 資料を読み、「骨髄バンク」を広げる活動をするまみこさんの気持ちについて考える。	○病気と闘っている間、光祐くんはどんなことを願っていたと思いますか。 ・早く病気が治るといいなあ。 ・元気になったらいっぱい遊ぶぞ。 ○病気と闘っている間、まみこさんはどのようなことを思っていたでしょう。 ・早く骨髄が見つかってほしい。 ・元気になったら何でもさせてあげたい。 ・できることなら代わってあげたい。 ○光祐くんが亡くなってしまったとき、まみこさんはどんな気持ちになったでしょう。 ・もっと生きていてほしかった。 ・もっと早く骨髄が見つかっていれば助かったかもしれない。とても悲しいし、くやしい。	○光祐くんの短冊の内容を考えることで、元気になったらしたかったであろうことを具体的に想像させる。 ○光祐くんのことだけを考えているまみこさんの気持ちを、自分の家族のことを振り返りながら考えさせる。 ○愛する息子を失うということがどのようなことか考え、まみこさんの深い悲しみやつらい気持ちに共感させる。
3 命を大切に生きる生き方について話し合う。	○アサガオを見たとき、まみこさんはどんなことを感じたのでしょうか。 ・アサガオは光祐の命の代わりかもしれない。ずっと受け継がれてほしい。 ・みんなに自分の命を大切にしてほしいということを伝えよう。 ・骨髄バンクの大切さを伝え、たくさんの人に助かってほしい。	○アサガオが光祐くんの命の象徴であることを感じ取らせる。 ○アサガオが全国に広がっていったということから、命を大切にするという思いが受け継がれていくということ気づかせる
4 命についてまとめ。	○命を大切にしてほしいと願って活動するまみこさんの思いに、みんなはどのように応えられるでしょう。 ・よく考えて行動し命を大切にす。 ・今がんばっている習い事を、目標を持ってやり遂げる。	○何事にも思い切り取り組むことが、一生懸命生きることにつながるということをとらえさせる。
	○一生懸命前向きに生きている人の話を紹介します。	○実践への意欲がもてるよう励ます。

⑥ 評価

生命が失われることの悲しさや苦しさを知り、生命がかけがえのないものであることを感じ取ることができたか、何事にも思い切り取り組もうという意欲がもてたか、発言や学習後のワークシートで評価する。